

学生 各位

副学長 五十川隆夫

地震を想定した避難訓練等の実施について（連絡）

平成23年3月11日14時46分には三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生（東日本大震災）しました。災害は、前触れもなく突然に起こります。

本学では、東海地震、東南海地震などに備え、危機管理施策の一環として地震（震度6弱）を想定した地震総合訓練を、学年暦にも予定したとおり、実施することとします。

災害を避けることはできませんが、対処の仕方により被害を軽減することはできます。「警戒宣言」が発令されたからと言って、不安になったり、パニックにならないために、日頃から地震防災対策に取り組んでいく必要があります。「釜石の奇跡」はその好例です。

今回の訓練の目的としては、学生の皆さんが自分の身の安全をまず守るということです。そして、安全な場所に避難することです。授業中の教室からグラウンドに避難することを主たる目的として行います。また、地震発生から避難完了までの指示の流れ、避難に要する時間、避難場所、避難ルートの確認、非常放送設備動作状況などの検証も合わせて行います。

学生の皆さんは、この趣旨を理解の上、訓練に臨んでください。

- 訓練日時 平成25年10月24日（木）午後1時～午後2時
※小雨決行、雨天の場合は延期
- 場 所 至学館大学キャンパス構内
- 訓 練 地震総合（避難）訓練（震度6弱の地震の発生を想定）と消火訓練等
- 参加者 **全学生及び全教職員並びに関係業者**〔同一構内の幼稚園も参加します〕
- 訓練内容

<構内放送にしたがい行動、避難してください。>

- ・授業中の学生は、科目担当の教員の指示にしたがって避難してください。
- ・授業以外で教員あるいは職員と一緒にいる学生は（個別相談、キャリア支援など）、教職員の指示にしたがい、グラウンドまで速やかに避難してください。
- ・避難ルートは、近くに待機している職員の指示にしたがってください。
（各建物の階段付近に職員が待機しています）
- ・グラウンド避難後は、教職員の指示にしたがい整列待機してください。

<注意事項>

- ・学生は、原則全員参加とします。
- ・大地震対応マニュアルを一読し、携行してください。また、当マニュアルP.19の「サバイバルポケット手帳」を切り取り必要事項を記入の上携行してください。
- ・貴重品は各自で管理してください。
- ・避難時の転倒、人や建物との接触によるケガには留意してください。
- ・避難時は、私語を慎み、整然と足早に避難してください。
- ・雨の影響でグラウンドがぬかるんでいる場合があります。当日の履物にも注意してください。

以上

地震発生時等における学生の心得

一. とにかく自己の生命の安全を第一に考えること

二. 地震が発生したらまず次の行動をとること

- 窓や棚のように、ガラスが割れたり中のものが飛び出しそうな場所から離れましょう。
- 机の下などにもぐるか、バッグ・衣類などで頭を覆うなどして、ガラス、黒板、テレビモニター、蛍光灯などの落下物から頭と手足を守りましょう。
- 余裕があれば、ドア付近にいる人はドアを開け、出口の確保をしましょう。
- 実験中など火気を使っているときは、火を消しましょう。また、薬品などから離れましょう。ただし、揺れているときは控えます。
- 広場やグラウンドなど、落下物がない場所にいる場合は、その場で座り込み、揺れがおさまるのを待ちましょう。
- 廊下にいるときは、梁・柱のある場所に行き、身を伏せる。
- 倉庫にいるときは、背の高い収納棚からすぐ離れ、机など強固なものの下に潜り込み揺れがおさまるのを待ちましょう。
- 大学の緊急放送を最後までしっかり聞きましょう。

三. 避難時の対応心得

- 大学の緊急放送を最後までしっかり聞きましょう。
- 冷静に落ち着きましょう。その場の状況が冷静に判断できたら、緊急指定避難場所（グラウンド）へ避難します。
- 絶対に押したり、走ったり、声をかけない。
おさない・かけない・しゃべらない・もどらない・なかない。
- 階段での混雑に注意し、下りるときは前の人との間隔を考え、先を争わないように順序よく歩く。
- 前の人我倒れたりした場合は、すぐに後ろの人が右手を上げて大きな声で合図する。
- ふざけないで真剣に行動し、私語をしない。
- 絶対に教室に引き返さない。
- 窓ガラスは閉めない。
- 電気は消さない。
- 廊下ですばやく2列に整列する。
- 全員が教室を出たか確認する。
- トイレ前を通るときは、「避難訓練です。残っている人はいませんか」と声をかける。
- 列を作って避難し、走らない。押したり追い越したりしないように注意する。
- エレベーターは使わず、階段を利用する。
- 階段を下りるときは、各階の避難者と混乱しないよう内側・外側を決めて避難する。
- 屋外で実技等を行っている場合は、適宜判断して避難する。
- 負傷者を発見したときは、単独での救助ができるか判断し、無理な場合は、応援を呼ぶ。

※ いずれも指定避難場所へ避難するが、場合によっては他の建物内、あるいは指示された緊急避難場所へ避難する。

四. “いざという時のために”

<もしもの場合>

- ① 建物の下敷きになってしまったら……
大声を出して助けを呼ぶ。身動きできる場合は、周囲の障害物をやたら動かさない。自力脱出が無理なときは、救助されるまで体力の消耗を防いで待つ。
- ② 建物の下敷きになっている人を発見したら……
自分の力で救出できるかどうかを判断して、絶対無理をしないで、応援を呼ぶ。
- ③ 倉庫やエレベータなどの内部に閉じ込められてしまったら……
声や音、光などの信号を発して、自分の所在を外部の人に知らせ、あとは落ち着いて救助を待つ。

<火災発生時の避難の方法>

- ① 口、鼻はハンカチ、衣類の袖などを覆う。水で濡らせばなお良い。そして、煙を吸い込まないようにして、姿勢を低く保ち、なるべく煙を避けて下層階へ脱出する。
- ② 廊下などの通路が煙で充満しているときは、無理をして室外へは出ず、部屋の扉を閉め、ぬらした布やガムテープ等で扉などの隙間をふさいで煙が室内に入らないようにし、窓を開けて助けを呼ぶ。
- ③ エレベータには絶対に乗らないこと。

五. 地震発生後 3 分間経過後の対応

①余震への備え

- ・避難ルートの確保

大きな地震には必ず大きな余震があります。窓・ドアを開け、避難ルートを確保します。

②火災防止への対応

- ・ガス漏れ対策として、二次災害を防ぐためにガスの元栓をしめます。
- ・電気火災への対策

配電盤のある研究室・実験室などはスイッチを切ってください。電気器具はプラグを抜き、スイッチを切ります。

震度 6 弱の揺れとは…… 立っていることが困難になる程度の揺れで、次のことが予測されます。

- 室内の状況：固定していない重い家具の多くが移動、転倒。開かなくなるドアが多発。
- 屋外の状況：かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下。
- 木造建物：耐震性の低い住宅では、倒壊の恐れあり。耐震性の高い住宅でも、壁や柱が破損する可能性あり。
- 鉄筋コンクリート造建物
：耐震性の低い建物では、壁や柱が破壊する可能性あり。耐震性の高い建物でも壁、梁、柱などに大きな亀裂が生じる可能性あり。
- ライフライン
：家庭などにガスを供給するための導管、主要な水道管に被害が発生。
[一部の地域でガス、水道の供給が停止し、停電する可能性あり]
- 地盤・斜面：地割れや山崩れなどが発生する可能性あり。